



2021年2月12日

各 位

会 社 名 ダブル・スコープ株式会社
代表者名 代表取締役社長 崔 元 根
(コード番号 6619 東証第一部)
問合せ先 取締役 大内 秀雄
(TEL 03 - 5436 - 7155)

営業外費用(オプション評価損)及び特別損失(減損損失)の計上に関するお知らせ

当社は、2020年12月期通期決算において、営業外費用および特別損失を計上することとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 営業外費用の内容

当社グループは、2020年12月期通期決算において、オプション評価損28億円を計上する見通しとなりました。当社の連結子会社であるW-SCOPE CHUNGJU PLANT CO., LTD.(以下、WCP)が前期及び当期に転換社債を発行した際、転換社債に付されたオプションの公正価値を評価しております。当連結会計期間におけるオプション評価損は、転換社債発行時から当連結会計年度末までのオプションの公正価値の変動額を営業外費用として計上するものです。なお、オプション評価損は当連結会計期間において現金流出の伴う費用ではありません。

2. 特別損失の内容

当社グループは、2020年12月期通期決算において、減損損失50億円を計上する見通しとなりました。2020年12月期は、上期においてコロナ禍による世界的な生産活動の停滞に伴い、当社グループの工場稼働率は低下しておりましたが、9月以降は顧客の需要が回復傾向に転じ、特に第4四半期においては、主に車載用電池向けの売上高が大きく伸長した結果、当第4四半期連結会計期間における営業損益は黒字転換しております。一方で、当社子会社であるW-SCOPE KOREA CO., LTD.(以下、WSK)の民生用途向けを含む生産設備については、継続して営業損失を計上しており減損の兆候が認められたことから、当連結会計年度末において将来の収益性を慎重に判断した結果、減損損失51億円を計上することとなりました。

今後、当社グループは、車載用途向けの顧客の需要拡大に対応すべく、WCPで新規ラインの建設を進めており(2021年下期量産稼働開始予定)、引き続き生産量を拡大していくとともに、WSKでのESS向けを含む民生用途の生産量拡大に取り組み、利益の改善に努めてまいります。

3. 業績に与える影響

上記の営業外費用及び特別損失は、本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」に反映しております。(当連結会計年度末の連結貸借対照表に計上しているオプション負債は、将来、転換社債が株式に転換された場合には現金流出を伴うものではありません。)

なお、当連結会計期間における減損損失 50 億円の計上により、2021 年 12 月期以降の減価償却費負担は軽減されることとなります。

以 上